

様式1、各部門共通

「食材王国みやぎ」推進優良活動表彰応募・推薦書

1 応募部門 ※応募するいずれかの1つの部門に○をつけてください。

地産地消	ブランド化
------	-------

2 活動主体者（自薦者及び被推薦者）の概要

(ふりがな) 活動主体の名称	ゆうげんがいしゃ やまふじうんゆ 有限会社 山藤運輸
(ふりがな) 代表者の役職・氏名	だいひょうとりしまりやく・さとう かつや 代表取締役・佐藤 克哉
(ふりがな) 所在地	〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田141-3
連絡先	非公開情報
活動主体の組織概要	当社は、材木の運搬から創業し、水産物輸送や宅配便関連事業、廃棄物輸送など、地域の『運ぶ』という役割を担ってきました。私たちは人々の生業と豊かな暮らしを支え、サステイナブルな社会、環境の実現に物流を通じて貢献し、地域と共に成長していくことを目指しています。 『運ぶ』という役割を与えてくださるお客様のベストパートナーとして、お客様の困りごとを解決できるよう、安心安全で多様な輸送サービス提供しております。 「人」が価値創造の源泉であるという経営方針のもと、人材育成と、明るく健康に働き続けられる職場環境の整備に注力しています。また、『安全はすべての業務に優先する』という安全基本方針を掲げ、社員の安全教育、労務管理を行っています。 一方で地球温暖化や気候変動など、環境の変化が著しい現在、脱炭素化や生物多様性保全、ネイチャーポジティブ、資源循環などの新たな社会要請の変化に対応する為に、環境事業課を設置し、バイオガス事業を中心にサステイナブル農業や脱炭素事業への挑戦を行っています。

確認事項	※活動内容が表彰の対象となった場合、表彰されるのはどちらか○を付けてください。 活動主体組織 活動主体の代表者（個人）
------	---

3 推薦者の概要 ※自薦の場合は記載不要です。

(ふりがな) 組織名称	非公開情報
(ふりがな) 代表者の役職・氏名	
(ふりがな) 所在地	
連絡先	

様式 2、地産地消部門用

＜地産地消部門活動について＞

1 活動の概要	※取り組んでいる内容を要約してください 「ひと森里海いのちめぐるまち南三陸」という循環のまちづくりの中核を担っている運送会社の自社が農業・教育・環境を通じて農林漁業者・調査研究機関・行政・消費者と共に持続可能な仕組みづくりを目指している。
2 活動のタイトル	※取り組んでいる活動に「タイトル」を付けてください。 「いのちめぐるまち」南三陸の実現に向けた肥料活用・生産・加工・販売が循環する持続可能な地産地消
3 活動の継続期間	※取組や組織の発展過程などを時系列で記載してください。 2013 年 12 月 南三陸町バイオマス産業都市構想策定、推進に協力 2015 年 10 月 南三陸 BIO 竣工（液体肥料製造施設）バイオガス事業に参画 2017 年 トラクターを導入。液肥散布した田んぼや畑に対し、トラクターで耕起した畔塗りなどの農業補助サービスを展開。 2017 年 2 月 株式会社南三陸さんさんマルシェ（産地直売所）に出資し立ち上げに関与。地域の農林水産物販売を行う。 2015 年 環境事業部を立ち上げ 2020 年 南三陸町農業委員会からの要請で耕作放棄地及び遊休農地（約 1 ha）を解消し、農業生産を開始 2021 年 農業部門を立ち上げ 2022 年 3 月 町内の耕作放棄地 20a を開墾、果樹生産（桃・すもも）を開始 2022 年 7 月～ 地域おこし協力隊制度を活用し、農業専門人材を採用 町内の耕作放棄地 70a を開墾、果樹生産（桃 10a、ワインブドウ 10a、ハウスぶどう 5a、渋柿 5a、ブルーベリー15a、いちじく 25a）を開始 2022 年 11 月 第 1 回南三陸いのちめぐるまち学会に参加、地域未利用資源の発掘（牡蠣殻・メカブ茎）及び町内の繋がりを創出 2023 年 11 月 第 2 回南三陸いのちめぐるまち学会に参加、地域未利用資源の発掘（ワインパミス） 2024 年 3 月 童子下いきもの研究会発足に寄与 2024 年 10 月～ 地域おこし協力隊制度を活用し、脱炭素専門人材を採用 町内の遊休農地 80a（桃 40a、果樹用 40a）を借り受け、生産及び土づくりを開始 2025 年 2 月 果樹剪定枝を活用したバイオ炭製造試験

	2025 年 3 月 令和 6 年度後期に童子下いきもの研究会のサイトが自然共生サイト認定（環境省） 2025 年 3 月 南三陸スイーツ協会発足に役員として参画	
4 活動の取組形態 ※別表 1 から該当する取組形態を選択してください。	中心として取り組んでいる取組形態 （複数選択可）	関連する取組形態 （複数選択可）
	イ 地域の直売所、加工施設、農家レストラン等における地域の農林水産物の利用促進 オ 地域の未利用資源の発掘・活用の促進 カ 地産地消を活かした産地づくりや遊休農地の解消 キ 地産地消と環境保全、地域循環システムを結び付けた取組 ク 地域振興に資する地産地消の活動の核となる人材の育成 コ 地産地消と食育、食農教育を結び付けた活動 サ 消費者との交流及びニーズを踏まえた地域の農林水産物の生産、新商品の開発、販売 セ 体験農業や観光農園、市民農園の推進等による生産者と消費者の交流活動（啓蒙、体験等） ソ 交流促進に資する地産地消の活動の核となる人材の育成 タ その他消費者と生産者の交流の促進につながる地産地消に係る取組	ケ その他地域の振興につながる地産地消に係る活動・取組 シ 都市部等の他地域との交流による地産地消 ス 観光業等他業種との連携による地産地消の活動
5 活動等の詳細	(1) 活動を始めた契機 ※動機・目的等を記載してください。 2011 年 3 月の東日本大震災直後、道路はがれきや崩落にて寸断。物流も麻痺。ライフライン（電気・ガス・水道）、通信はすべてストップ。食べ物や飲み物、暖を取ることすらままならない。ガソリンスタンドも被災した為、燃料も不足。そんな中でも町内の農村地帯では食べ物や薪などのエネルギーのストックが豊富にあり、普段当たり前にあるインフラやライフライン、エネルギー、そして運送業及び食の重要性を再認識。人と人のつながりの大切さや農家の強さを発見する経験にもなった。 地域の農家と関わる中で見えてきたのは、厳しい農業の現実だった。高齢化による担い手不足、そしてそれに伴う耕作放棄地の増加。震災時に沿	

岸部を支えてくれた農家たちが、今では危機に瀕していることを知った。「この地域で安心して暮らし続けるためには、農業の支援が不可欠だ。」その思いから、山藤運輸は液肥散布後の田畑をトラクターで耕起したり、畦塗りをを行うといった農業補助サービスを開始。農家からは大好評。さらに、耕作放棄地を少しでも減らすために、自社で米作りを開始。資源循環に取り組む農家たちと共に、「めぐりん米」という名称で商標登録（商標管理窓口は南三陸町役場）し、地産地消活動及びブランド化を進めている。

(2) 活動の理念

※メインテーマ、目標など、タイトルの説明等を記載してください。

南三陸町のビジョンでもある「ひと森里海いのちめぐるまち南三陸」に深く共感し、「想いを運ぶ 未来につなぐ」というコーポレートスローガンを掲げ、【食とエネルギーの循環】の仕組みづくりを目指している。

(3) 活動の内容

※具体的な活動の内容、方法等を記載してください。

※必要に応じて活動内容に関する資料（写真、記事、チラシ等）を添付ください。

イ 地域の直売所、加工施設、農家レストラン等における地域の農林水産物の利用促進

・町内のさんさん商店街にある「さんさんマルシェ」（当社の関連企業）にて地域の旬の農林水産物を販売。自社で生産している「めぐりん米」や果物を販売している。

自社で生産している果物（桃・すもも・いちじく等）の中で、消費者に販売できない規格外の果実も「さんさんマルシェ」で加工し、ソフトクリームのソースやスイーツとして活用してもらい、お客様へ提供し、地元の旬の商品として人気を博している。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←さんさんマルシェにて
「めぐりん米」を販売。
令和6年度産米は全量完売。
全て税抜きで1 kg 900 円、
2 kg 1,700 円と農業で再生産
可能な価格設定にしている。

みやざきん 令和5年度産 南三陸町産 令和5年度産 南三陸町産

令和5年度産 南三陸町産 ひとめぼれ めぐりん米(白米)5kg



←さんさんマルシェのふるさと納税
で自社のお米を販売。
ふるさと納税のお米だけで 80 万
の売上になっている。(2024 年)
※人気商品で冬の間に完売。



←商品にならない規格外の桃を活用した桃パフェ
(試作)
過熟や廃棄になってしまう桃をうまく活用
いただき、2025 年夏に提供した桃スイーツは
完売した。

・海藻専門店 SEASON に自社の「めぐりん米」を活用してもらい、羽根つ
きおにぎりとして提供してもらっている。JRE ショッピングモールの WEB
サイトなどで販売いただいております、年々取引量が増えている。

<https://shopping.jreast.co.jp/products/detail/s013/s013-24w019>

(令和 7 年度産米は 13 俵のご予約いただいております)



「めぐりん米」を活用した
羽根つき焼きおにぎり。

南三陸めぐりん米をつかった羽根つき焼きおにぎり

太田さんが手がけたお米「めぐりん米」を使ったSEASONオリジナル羽根つき焼きおにぎりはコチラ。



羽根つき焼きおにぎりは、羽根のように広がったおこげがパリッと香ばしいおにぎりです。ワカメや海苔、ひじきなどお米との相性がよい海藻を使用。

めぐりん米のさっぱりとした味わいと粘りは、羽根つき焼きおにぎりとも相性抜群です。ぜひ、南三陸の里山と里海のコラボレーションを味わってみてください。バリエーションは、わかめごはん、海苔チーズリゾット、梅ひじきの三種類。冷凍商品なので、保存がきいて、食べたいときにレンジで温めて手軽に食べれるのも嬉しいところです。詳しくは、こちらの商品ページをご覧ください。

<https://season-s.com/blogs/journal/seasoner-001> より引用

オ 地域の未利用資源の発掘・活用の促進

【未利用農産物】

・自社でも果樹生産に取り組んでいるが、地域の果樹農家の課題の1つは規格外果実の活用であった。2025年3月に町内の有志（飲食店、農家）が集まり、「南三陸スイーツ協会」を発足。自社も役員としてこの立ち上げを共に行い、規格外果実の活用ができる「スイーツピクニック」（桃・葡萄・林檎を活用したイベント）の仕組みづくりを実施。町内外のお客様に喜んでいただいている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開



←2025年8月6日南三陸スイーツ協会プロジェクト発表会の様子。

（南三陸町内で実施）

町内外、メディアあわせて40名が参加。自社が役員として発表会をコーディネートした。

←2025年8月6日南三陸スイーツ協会プロジェクト発表会時に贈答用の桃および桃の試食を提供。



←スイーツピクニックのイベントで活用された規格外の桃（調理中）。農家の所得向上に寄与している。



←試作でいただいた桃のスムージー。規格外の中でも熟れすぎた桃や虫食いの桃も余すことなく活用いただいた。

【未利用資源】

・ワカメや牡蠣などの海産物を生産している戸倉 Seaboys（漁師のグループ）で活用されないメカブ茎や牡蠣殻があった。処分料を支払っていた資源を自社で引き取り、田畑の肥料として活用。ミネラル源として重宝している。



←ミネラル源として活用しているメカブ茎。ワカメを採った後に出る廃棄部分を全量活用。そのまま田畑に散布。



←南三陸の特産である「牡蠣」の殻をそのまま果樹園に散布。藻や他の貝類がついているが夏には細かく分解されている。カルシウム源として活用。

・南三陸ワイナリーではワインを搾汁するときに出るぶどう搾りかすの活用に困っていた。ぶどう搾りかす全体の7割は廃棄されており、その7割を自社で全量引き受けた。アルコール発酵しており、田畑の病原菌の総数を減らすために活用している。自社でもワイン用ブドウを栽培しており、循環の仕組みを創ることが出来た。



↑ワインブドウ搾りかすを田畑に撒いた様子

・果樹を栽培すると剪定した時に出てしまう枝が未活用であった。片付けの労力や枝の廃棄場所の確保などが課題である中、これをバイオ炭として資源化し、地域の経済価値につなげようとしている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、
写真は非公開

果樹園の傍で剪定枝を燃やしている様子。
（役場と消防署に許可を得て実施）
今までは車で運ぶ労力や廃棄する場所が
課題だった。



燃焼で出来たバイオ炭。
容量が10分の1になり、持ち運びや活用
も容易になった。
これを農地にすき込み、カーボンレジ
ットとして経済価値に変えていく予定で
ある。

カ 地産地消を活かした産地づくりや遊休農地の解消

・稲作は遊休農地候補を借り受け、果樹栽培については耕作放棄地を積極的に借りて営農を行っている。自社の農業はカーボンニュートラルを目指しており、耕作放棄地の草などを土壌に堆積させて還元、地力増進の取り組みを行っている。



←耕作放棄地になってしまった農地。草や竹が生い茂っている。



←耕作放棄地を開墾した様子。地上部のみ刈り取り、草や竹は破碎し、農地へ還元。



←開墾した畑でワイン用葡萄を栽培。

※町内には南三陸ワイナリーがあり、ワイン用にする葡萄は町内で全量生産したいという要望を持っていた。連携協力し、生産を実施。

キ 地産地消と環境保全、地域循環システムを結び付けた取組

・南三陸町では 24 時間 365 日、町内の全てのごみステーションにて家庭用生ごみを集めており、アミタサーキュラー株式会社が管理している「南三陸 BIO」に集めて液体肥料（バイオマス発酵消化液のこと、以下、液肥と称する）を製造している。その液肥を田畑に散布する仕事、運搬する仕事を当社が担っており、高齢化になった農家の肥料散布負担の軽減にも繋がっている。また南三陸町内には約 40 ヶ所に液肥が入った 1t タンクが

設置されており、その液肥運搬を弊社が担っている。町民には家庭菜園等で活用いただき、循環の仕組みが日常に浸透している。



←町内に設置された液肥タンク。

この液肥タンクへの補充・運搬は全量、自社がアマタサーキュラー株式会社より請け負っている。

この液肥が活用された家庭菜園の野菜も自家消費されて、一部は生ごみとなり液肥となって循環する。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←田んぼへ液肥散布している様子。

3月～4月で約2300tの液肥を

自社が運搬・散布する。

農家から大好評で製造された液肥が全量活用されている。

・自社でも液肥を活用した稲作を行い、販売を行っている。稲作そのものが環境にどのような負荷を与えているかを見える化するため、農林水産省温室効果ガス削減及び生物多様性保全の見える化ラベル申請を行い、どちらも星3（東北初の最高ランク）の認定を受けた。



←取得した「温室効果ガス削減及び生物多様性保全の見える化」ラベル稲作でのダブル星3取得は東北発であった。今後は果樹の温室効果ガス見える化にも取り組んでいく。



←三陸新報社の新聞記事。地元メディアにも応援いただいている。

ク 地域振興に資する地産地消の活動の核となる人材の育成

・自社で地域おこし協力隊を受け入れ、環境事業（液肥散布及び農業）の専門人材として雇用し、育成を行っている。協力隊期間が終了した人材は町に定住し、継続して環境事業に携わっている。この人材が農業の他、環境教育、南三陸スイーツ協会立ち上げ、童子下いきもの研究会創設など地域の皆さんと連携し、地域課題を解決すべく邁進している。



←自社の液肥散布事業にも積極的に取り組んでいる。現在は現場リーダーとして液肥散布や運搬、農家との散布日程調整などを担う。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←自社の4年目の桃園にて桃の状態を確認している様子。耕作放棄地の開墾から生産・営業・販売までこなす。本質的な地域課題は何なのか地域の皆さんとコミュニケーションも図っている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←いのちめぐるまち学会にて環境教育を行っている様子。自社の独自モデル（農業×循環液肥の活用×脱炭素×生物多様性保全）を紹介している。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←2025.8.6の南三陸スイーツ協会プロジェクト発表会の様子。プロジェクト全体のコーディネートから統括を行い、当日はプロジェクトの説明を担った。

・協力隊員（脱炭素及び生物多様性保全分野）を受け入れ、地域資源（果樹剪定枝やもみ殻）を活用したバイオ炭製造・活用を試験している。この隊員は地域の価値（脱炭素分野や生物多様性保全）を見える化し、経済価値へ変換し地域所得が向上するような取り組みを始めている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←果樹剪定枝で製造したバイオ炭を田んぼに撒いている様子。

記録をとってカーボンクレジットを創出する予定になっている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←環境価値の見える化の

他に現場作業も実施。田植えや桃の管理など農業の担い手としても研鑽を積んでいる。

人材が人材を育てる、自社ならではの仕組み。

コ 地産地消と食育、食農教育を結び付けた活動

・R6 年度に地域（南三陸町入谷童子下）のいきもの調査を南三陸ネイチャーセンター、南三陸少年少女自然調査隊（地元の小中学生）と共に実施。自然共生サイト認定に向けての調査であったが、農業と生きものの繋がりが見える取り組みができた。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←田んぼ脇の堀でいきもの調査をしている様子。

田んぼと堀を行き来するいきもの達の生態を現場で確認しながら共生の大切さを皆で学んでいる。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←水田及び周囲環境で採取できた微生物を特定している様子。

いきものを特定する子どもたちに大人は顔負けだった。

・「南三陸 BIO」見学者受け入れの際にも弊社環境事業部が赴き、子どもたちから社会人まで南三陸の循環の取り組みをお伝えしている。弊社が液肥散布をし、自社でも稲作していることを PR しながら、食卓と農業の現場がどうつながっているのかを考えるきっかけづくりを行っている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←（一社）サステナビリティセンターがコーディネートし、毎年開催されている早稲田初等部研修。

アミタサーキュラー(株)が運営する「南三陸 BIO」にて循環の取り組みを学ぶ。



←液肥の製造～お米作りの現場、実際に地域内で「めぐりん米」が販売されている一連の流れを見ていただいている。自社では液肥散布ができる散布車の試乗体験を実施。

・南三陸町内の子どもたちへ環境教育を随時行う他、毎年開催されている富谷高校への出前授業に積極的に参加している。富谷高校ではESD（持続可能な開発のための教育）講演会と称して南三陸の循環の取り組みを高校生たちが学ぶ。自社は毎年呼び出している。地産地消を進める上でも子どもたちへ取り組みを伝えることは重要だと認識している。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←社長の熱のこもったプレゼンの様子。

食農や環境のことだけでなく、生きる上で大切にしている考え方も子どもたちに伝えている。

自社の社員も出前授業を担う。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←富谷高校での出前授業。

自社がなぜ農業をするに至ったかを説明しながら地産地消や循環の大切さを伝えている。

サ 消費者との交流及びニーズを踏まえた地域の農林水産物の生産、新商品の開発、販売

- ・戸倉 Seaboys や海藻専門店 SEASON から要望があり、ササニシキの生産に 2024 年から取り組んでいる。南三陸町内で生産している農家は少なく、自社が要望に応える形で始まった。このササニシキにも南三陸の液肥が活用されており、戸倉 Seaboys や海藻専門店 SEASON と共に消費者に循環のストーリーを伝えたり、南三陸の森里海の素材の素晴らしさを伝えている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←仙台市内にて行われた戸倉 Seaboys と消費者との交流イベントの様子。

今回は特別に呼んでいただいた。自社からササニシキ、セリを提供した。

森里海のフルコースディナー。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←戸倉 Seaboys の銀鮭漁師兼
シェフの佐藤氏より料理いた
だいたササニシキの塩むすび。
セリ鍋との相性は抜群であった。

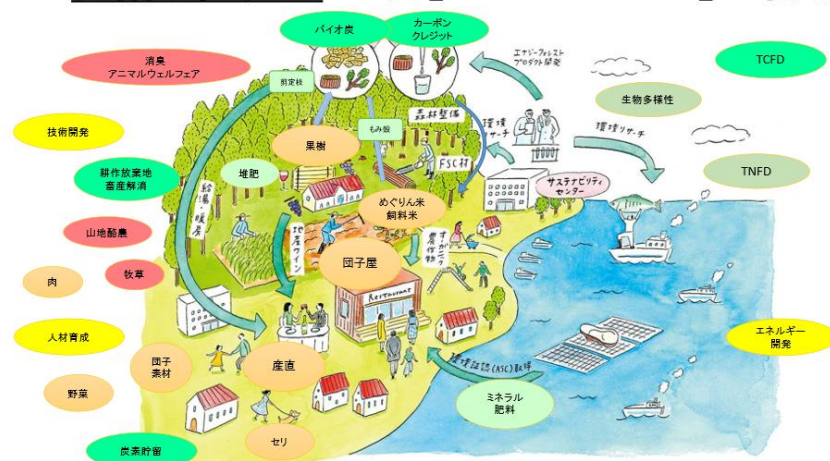
・仙台市 CROSS B PLUS にて行われた南三陸交流会へ参加した。
自社プレゼンを行い、環境事業部が目指す「食とエネルギーの循環」
ビジョンへの共感が消費者より得られ、取り組みやお米の味を
ご評価いただいた。継続的に参加し、より認知度を高めていきたい。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←ブースにて取り組みや
「めぐりん米」を使用した
塩むすびを提供。

目指す仕組み 「食」と「エネルギー」の循環



↑ 自社の環境事業部が目指す「食とエネルギーの循環」モデル図

・地産地消を進める上で定期的に消費者と直接話しながら販売する機会に参加している。宮城県は果物ニーズがあるが果樹生産は少ないということがわかってきた。ニーズを基に自社でブルーベリー・いちじく生産に取り組み始めた。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←南三陸さんさんマルシェと共同で長町の販売会に参加。地元産の農産物は根強い人気がある。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←南三陸さんさんマルシェで自社生産の野菜を販売した。消費者と直に話しながら農産物ニーズを聞くことが出来た。その土地ならではの食べられるものが良いとのこと。



←ニーズを踏まえて植樹したブルーベリーの苗木。生の果実は直売所やスーパーへ出荷し、規格外についてはさんさんマルシェにてソフトクリームのソースになる予定。



←同じくニーズを踏まえて植樹した、いちじくの苗木。甘露煮用で需要が見込める。市場関係者に聞くと宮城県はいちじく生産が減少しており困っているとのこと。消費者から求められている農産物の1つ。規模拡大してほしいと要望あり。

セ 体験農業や観光農園、市民農園の推進等による生産者と消費者の交流活動（啓蒙、体験等）

- ・南三陸ワイナリーとの連携によるワイン用葡萄生産を 2022 年より開始。町内産のワイン用葡萄がほしいとの要望から実現した。ワイナリーとの連携により消費者との植樹祭を実施。消費者との交流だけでなく、数年後にできるワインを全員が待ち望んでいる。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←南三陸ワイナリー・消費者・地主さん・自社が勢揃いし、ワイン用葡萄の植樹を実施。数年後にできるワインを皆が待ち望んでいる。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←ワイン用葡萄を皆で植樹している様子。皆さん楽しみながら真剣に植えていただいた。



←三陸新報社さんに記事にしてください。地産地消を進める上で、地域内での認知度向上に努めている。地域課題を解決する自社にとって地域の皆様から、より応援していただける機会となった。

- ・農産物の商談会や販路相談でお世話になっている気仙沼地方振興事務所が開催している「気仙沼・南三陸仕事探検隊」にて地元の消費者に企業説明や桃の収穫体験を行った。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←桃の収穫体験の様子。

地元では桃を栽培している生産者は数名で貴重な体験ができたと言っていた。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←地産地消の活動や循環の取り組みなどを皆さんに説明している様子。

入社して1年経っていない社員でも会社の取り組みをしっかりと伝えてくれた。



←三陸新報社さんが積極的に記事を書いていただいているおかげで地域内での自社の認知度が高まってきている。

身近な食物残渣でも液肥やコンポストとして活用することで資源が循環し、持続可能な地産地消になることを説明した。

ソ 交流促進に資する地産地消の活動の核となる人材の育成

・自社の協力隊員が持続可能な地産地消を推進する中で、（一社）サステイナビリティセンターと共に果樹剪定枝を活用したバイオ炭製造イベントを開催。地域の食農コンテンツ作りの一環としてだけでなく、農家の課題解決に資する取り組みでもあった。イベントを開催したり進行するノウ

ハウを学ぶことができ、今後のコンテンツづくりに活かしていく。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←農家の果樹剪定枝の課題解決と企業が循環の取り組みを学び、実践するコンテンツとしたイベント。
交流人口の拡大を図り、循環する地産地消のPRに一役かっている。

・IATSS（国際交通安全学会）のIATSSフォーラムは、アジア10か国を対象に実施しており、“共に考え、共に学ぶ ～Thinking and Learning Together～”をモットーに、アジアの将来を担う人材の育成の為の研修を行っており、農業分野での発表を行った。南三陸BIOの液肥に強い関心を示しており、持続可能な社会の実現に向けて各国が取り組みを学んだ。国際的に見て南三陸や自社の取り組みは素晴らしいとご評価いただいた。英語で発表する機会をいただき、またとない学びを得た。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←勉強会の後に食事会を実施。
自社からは育てた野菜を提供した。
地域で育てた小麦のパンに皆さん笑顔。

タ その他消費者と生産者の交流の促進につながる地産地消に係る取組

・自社でインターン生を受け入れ、未来のファンづくりも行っている。今回は卒業論文で南三陸の循環の取り組みを題材にしたいとのことだった。地産地消を推進するため、今後も交流人口を増やしていきたい。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←南三陸の地産地消及び循環の仕組みの一翼を担う液肥製造施設の見学。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←インターン生と共にいちじくの凍害対策で稲わらを巻いている様子。

・南三陸町内での起業研修プログラムを実施する株式会社 ESCCA と連携し、体験受け入れをしている。交流人口増に寄与し、農業の面から「いのちめぐるまち」の発信を実施した。中には移住検討者もいるため、今後も積極的に受け入れを行いたい。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←地産地消や循環の取り組みをプレゼン。

起業するためのヒントを提供する機会にもなっている。

写真（活動の様子）

※肖像権保護のため、写真は非公開

←一緒に収穫体験を実施。

地域のことを知ってもらい、肌で地産地消や循環の流れを感じてもらおうきっかけにしている。

・「いのちめぐるまち」南三陸の実現に向けた循環型の地産地消を広めていくために自社のホームページや SNS にて情報発信を行っている。交流人口を増やし、取り組みを理解してもらうために実施している。



←自社ホームページの一部



←SNS 用で使用
している
ツール。
販促物として
も活用。

(4) 活動の成果

※取組の進展の中で生じた、農林漁業者への意識や農林水産業の変化、活動に対する支持、信頼性、広がりや人材育成に対する成果などを記載してください。

・農林漁業者への意識や農林水産業の変化

自社が地域の課題解決（耕作放棄地解消や遊休農地の引き受け）を行うことにより、農業者間での協力関係が生まれている。（機械の融通や農地情報の共有など）

資源循環の取り組みの中で戸倉 Seaboys ともつながり、活用されていなかったメカブ茎や牡蠣殻などの資源を頂戴することができ、漁師とのつながりも生まれた。現在は戸倉 Seaboys のイベントにも呼んでいただき共に南三陸の循環型の地産地消を進めている。

また、南三陸は環境配慮についても重要視しており、一般社団法人サステイナビリティセンターが主催する「いのちめぐるまち学会」にて農林漁業者や町内外の方々と意見交換し、自社の「農業×南三陸B I O液肥×脱炭素×生物多様性保全」モデルを紹介。持続可能なモデルとして注目いただいている。携わる皆さんが持続可能な農林水産業にするために各々の分野で切磋琢磨する意識が生まれている。

・活動に対する支持、信頼性

地域とのつながりで支えられてきた液肥散布事業で農家の要望に合わせた作業体系を組み、農家からは大好評。そこで地域との信頼を得ている。また、自社は耕作放棄地を開墾して農業をスタートさせており、地域の課題を解決している（現時点で約 2 ha）。さらに耕作放棄地を開墾し、規模拡大してほしいと

要望をいただいている。副次的な効果になるが、耕作放棄地が開墾された

	ことで獣害が軽減したり、景観が戻ったことに地域の農業者から感謝され、応援していただいている。 ・広がりや人材育成に対する成果 自社で協力隊として雇用し、育成した人材が核となって農業に携わっている。(1名)この人材が定住し、新たな人材(協力隊1名)を共に育てていくことにより、持続可能な地産地消が見えてきている。地域との信頼関係も構築することができ、果樹部会の役員を任されたり、南三陸スイーツ協会や童子下いきもの研究会の立ち上げに携わるなど幅広い分野で活動している。 最近では南三陸スイーツ協会の取り組みにより農林漁業者だけでなく、町内の飲食店とのつながりも創出し、町の一体感を共に生み出している。町役場や周りからの応援もありつつ、自社が率先して地域課題を解決することにより、ニーズのある農産物や販売先をご紹介いただく機会を得ている。 (5) 今後の活動の見込み <u>※これからの取組の目標、将来への抱負などを記載してください。</u> ・お米 地元での需要に応えるべく、稲作面積拡大していく(5年以内に稲作総面積10ha) ・果樹 南三陸スイーツ協会の活躍により果樹生産が課題となっている。さらに交流人口増への寄与、町内滞在時間を増やすための施策として南三陸町内にフルーツパークを創る。 ・人材育成 循環型の地産地消をより推進するため、新たに2名(1名:稲作、1名:果樹)を雇用し、農業者として育成していく。
6 活動のPR ポイント	<u>※上記活動等の詳細欄に記載した内容のうち、特にPRしたい点を箇条書きにしてください。</u> ・「めぐりん米」が連携している団体等の助力もあり、地域に根付いた。 ・自社で育てた人材が定住、新たな人材を共に育成しており、循環する地産地消の推進体制がより強固になった。 ・地域密着を大事にする自社が活動を通して地域課題を解決することができている。(耕作放棄地解消2haや遊休農地の活用80a、南三陸スイーツ協会の立ち上げに貢献など)

7 連携している 団体等	※活動主体と連携して取り組んでいる団体等について記載してください。 ・ 南三陸町（企画課/農林水産課） ・ 宮城県気仙沼地方振興事務所 ・ アミタサーキュラー株式会社 ・ 一般社団法人サスティナビリティセンター ・ 南三陸ネイチャーセンター ・ 株式会社南三陸さんさんマルシェ ・ 南三陸ワイナリー株式会社 ・ 戸倉Seaboys ・ 海藻専門店SEASON ・ 株式会社ESCCA ・ 南三陸スイーツ協会 ・ 童子下いきもの研究会	
8 特記事項	(1) 受賞歴等	※当該活動に受賞歴等がある場合には記載してください。 2017 年 ・ 青年経営者の先進的事業取組み 銅賞受賞（全日本トラック協会） ・ 地域未来牽引企業に選定（経済産業省） 2020 年 3 月～2025 年 3 月 健康経営優良法人認定（2022 年、24、25 年はブライト 500） 2023 年 農林水産省温室効果ガス削減見える化星 3 取得（お米） 2024 年 ・ 七十七銀行のSDGs 診断（外部専門機関の認証）を受け、最高ランク『プラチナSDGs』ランクを取得 ・ 農林水産省温室効果ガス削減見える化星 3 及び生物多様性保全星 3 取得（お米）【東北で最初に取得】 2025 年 ・ 農林水産省温室効果ガス削減見える化星 3 及び生物多様性保全星 3 取得 ・ 環境省自然共生サイト認定 童子下いきもの研究会「新童子下・童子下の田んぼ」
(2) メディア 紹介	※各種メディアで紹介された実績を記載してください。 ・ 七十七 R & C ・ 河北新報社 ・ 三陸新報社 ・ 物流ニッポン ・ 岩手日日新聞社 ・ ミヤギテレビ「OH！バンデス」の南三陸スイーツ協会	

	特集内の 1 コーナーにて	
(3) 活動資金 <u>※右記の該当する欄に○を付けてください。</u>	○	国、県、市町村等の補助事業 事業名：地域おこし協力隊の助成金（総務省）
		民間団体・企業からの助成
	○	自己資金・その他（ ）
(4) 実績値	※実績値が明らかな場合は別表に数値を記載してください。	

別表 地産地消部門

1 過去5年間の活動実績（令和7年8月31日時点）

※実績を示す数値が複数ある場合は、それぞれの実績を記載してください。

（ 事務所直売 ）

	主な農林水産物の種類	取扱量	取扱額（千円）	施設の場合の利用人口 （入込数、給食者数等）
令和3年度	米		非公開情報	
令和4年度	米			
	野菜等			
	渋柿			
令和5年度	米			
	野菜等			
	渋柿			
令和6年度	米			
	野菜等			
	桃			
	渋柿			
	セリ			
令和7年度	米			
	桃			

（ さんさんマルシェ ）

	主な農林水産物の種類	取扱量	取扱額（千円）	施設の場合の利用人口 （入込数、給食者数等）
令和4年度	米		非公開情報	
	野菜等			
	渋柿			
令和5年度	米			
	野菜等			
	渋柿			
	セリ			
令和6年度	米			
	野菜等			
	桃			
	渋柿			
	セリ			
令和7年度	米（令和6年産）			
	桃			

	すもも		非公開情報	
--	-----	--	-------	--

2 全体の合計額

	取扱額（千円）
令和3年度	非公開情報
令和4年度	
令和5年度	
令和6年度	
令和7年度	

(※令和7年8月31日時点)